

隋の天下を統一するに迫り、文帝の開皇元年(五百八十年)長城を修築し、同五年丁男三萬を發して朔方の靈武(今甘肅省靈州)より、西は綏州までの長城を築けり。同六年丁男十五萬を發し、朔方以東の長城を修め、翌年復た壯丁十萬を發して之を修理せり。煬帝は大業三年(六百七年)百餘萬の壯丁を發し、西は榆林より東は紫河(山西北城附近)に至る間の長城を築き、翌年二十萬の壯丁を發して之を修理せり。

唐、金、元の時代にも多少、長城修築の事ありしものゝ如きも、特筆すべきこと無かりき(居庸關は元の泰定二年の修築なり)

明に至りては大に力を長城に用ひ、前後修築すること數十回、殆んど前代の城壁關門を改築したるが如き觀あり。特に往時建設なかりし蘭州以西、嘉峪、玉門の兩關に至る長城の如きも此時代に成れり。其工事の主要なるものを擧ぐれば、洪武十四年(一千三百八十年)魏國公徐達の修築、嘉靖二十五年(一千四百四十六年)總督翁萬達の修築、宏治中(十四代八百八十年)薊遼の巡撫洪鍾の修築、隆慶中(十五年五百六十年)軍門譚倫の修築にして、其他大小の工事を経て、今日の如く壯大なる長城始めて大成したるなり。

明亡ひて清國起るや、康熙帝は一片の上諭を發し、守邊の道は、徳を修め、民を安ん